

2026年3月25日

Audi R8 LMS GT4、スーパー耐久第1戦でクラス優勝

- TECHNO FIRST、Audi R8 LMS GT4 で ST-Z クラス優勝、今年度初戦で表彰台
- Audi R8 LMS GT4 は、2022 年の初参戦以来、4 度目のクラス優勝を達成

アウディ ジャパン(東京都品川区、ブランドディレクター：マティアス シェーパース)が、Audi Sport customer racing プログラムとしてサポートする国内の顧客 (プライベート) チーム TECHNO FIRST が、3月22日(日)モビリティリゾートもてぎ(栃木県：全長4,801m)で開催された「第1戦 もてぎスーパー耐久」において、Audi R8 LMS GT4 で ST-Z クラス優勝を遂げました。Audi R8 LMS GT4 は、昨シーズン11月の富士最終戦に続く連勝、さらに2022年の初参戦以来通算4度目のクラス優勝を達成しました。過酷な耐久レースの舞台上で、その圧倒的なパフォーマンスと信頼性を改めて証明しました。

スーパー耐久シリーズでは、GT3 や GT4 といった高性能マシンをはじめ、様々なクラスのマシンが参戦し、混走により速さと耐久性を争います。Audi R8 LMS GT4 が4回目の優勝を果たした ST-Z クラスは、GT3 と TCR の中間に位置する GT4 マシン 12 台によって競われました。Audi R8 LMS GT4 は、市販モデルの Audi R8 Coupé と 60%以上の構成部品を共有しており、速さはもちろん安全性、耐久性、整備性が高く、コストパフォーマンスに優れていることが特徴です。

今回のレースにおいて、加納 政樹、大草 りき、安田 裕信の3名のドライバーによる TECHNO FIRST は、予選をクラス4位で通過。決勝では、戦略的なピットワークが勝利の鍵となりました。1回目のフルコースイエロー (FCY) 導入直前に34号車 TECHNO FIRST R8 LMS GT4 が絶妙なタイミングのピットインにより実質的なリードを築きます。最終スティントでは、後方に迫るライバルとの緊密な攻防が繰り広げられ、残り10分を切る局面で1秒以内にまで接近を許す展開となりました。しかし、ステアリングを握る大草 りき選手は冷静にギャップをコントロール。最終的に0.976秒差でトップを守りきり、今シーズンの幕開けを勝利で飾りました。

アウディ ジャパンは2016年来、Audi Sport customer racing パーツトレーラーを全国のサーキットに配備してレースに参戦する顧客チームをサポートしています。今年も専用のトレーラーにボディ、トランスミッション、エンジン等、レース車検に適合した約4,200アイテム、約14,000点の部品を積載し、いかなるレース展開にも対応できる万全の体制を整えて、スーパー耐久に参戦するチームと共にサーキットを転戦しています。

フォルクスワーゲン グループ ジャパン株式会社
アウディ ジャパン 広報部

報道関係者お問い合わせ：
<https://audi-press.jp/contact/>

アウディ ジャパン プレスサイト
<http://www.audi-press.jp/>

お客様お問い合わせ：
アウディ コミュニケーション センター
0120-598106



アウディについて

アウディは、インテリジェントで電動化された製品を通じて変革を推進し、未来のモビリティを創造しています。このプレミアム自動車ブランドは、世界100以上の市場で展開されています。そのグローバルな生産ネットワークは13カ国22拠点に及び8万8,000人以上の従業員がVorsprung durch Technik (技術による先進)の精神のもと結束し、勇気、情熱、責任、そして信頼により、100年以上にわたる自動車製造の伝統を未来に向けて再解釈しています。2026年、アウディはモータースポーツのDNAを大胆に体現すべく、ファクトリーチームとしてFormula 1に参入します。また、アウディグループには、スーパーカーメーカーのランボルギーニ、ラグジュアリーブランドのベントレー モーターズ、そしてモーターサイクルメーカーのドゥカティが含まれます。

アウディグループの詳細については、[こちら](#)をご覧ください。